



宗岡二中だより 6月号



平成30年6月1日（金）

志木市下宗岡 4-1-10 TEL048-472-1516

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

魔法の言葉

校長 滝沢 慎

私は、高校生の時、庭球部に所属していました。シーズン中は休みがなく、ほぼ毎日、汗を流していました。顧問の先生はいるのですが、技術面、生活面とも、上級生が、下級生を教えるという形でした。

入部して、一番初めに教えられたのは、あいさつと返事です。

いつ、いかなる場所であっても、顧問の先生や先輩に会ったら、大きな声で、「ちわっ」（「こんにちは」を短縮したものらしい）と、あいさつをします。人でごった返した、駅のホームでもします（先輩は恥ずかしそうにしていました）。また、誰もいなくても、テニスコートにもします。

返事は、「はい」と「したっ」（「ありがとうございました」「わかりました」を短縮したものらしい）です。

「ちわっ」「はい」「したっ」に、別れる時の「失礼します」を加えれば、生活は成り立ちました。

野球部は、「こんちゃ」（と聞こえました）、柔道部は、無言で（心の中では「押忍」と言っているそうです）軽く頭を下げるだけです。なぜ、声に出さないのか聞いたところ、あいさつは、気持ちの問題なので、声は必要ないとのことでした。当時の私は、人が大勢いるところで、大きな声であいさつをするのも、無言であいさつをするの、それでいいのかなと、思っていました。

高校卒業後、某ファミリーレストランで、

アルバイトをしました。その時、初めに教えられたことも、あいさつと返事でした。「いらっしゃいませ、〇〇へようこそ」「はい、かしこまりました」「あいすいません」などです。鏡の前で徹底して練習しました。レストランでは、お客様が第一です。相手を気遣う行動が大切です。気持ちよく、過ごしていただくための第一歩があいさつでした。

さて、私は、毎朝、校門近くで、「おはようございます」とあいさつをしています。私より早く、元気な声で、「おはようございます」とあいつをしてくれる生徒がいます。嬉しくなります。多くの生徒は、私にあいさつを返してくれます。しかし、友達との会話に夢中になっているのか、全く応えてくれない人もいます。地域の方々から、宗二中生は以前より、あいさつが出来なくなると、残念なお話をいただくこともあります。

あいさつは、人間関係の要です。相手の立場に立ち、思いやりとリスペクトの気持ちをもって、時と場に応じたあいさつが出来ると、自分を取り巻く世界が変わります。自分に良いことが返ってきます。あいさつは人と人をつなぐ「魔法の言葉」です。自分から、笑顔であいさつできる人になりましょう。「いってきます」「いってらっしゃい」「ただいま」「お帰りなさい」などの家庭内のあいさつや言葉かけも大切です。

あいさつが苦手だと思う人も、一歩目を踏み出してください。